

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大分県			代表者名	大分県知事 佐藤樹一郎
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	企画振興部 統計調査課	連絡先電話番号	097-506-2495
担当者役職	主事	担当者氏名	藤澤 弘貴	連絡先E-mail	
住所	870-8501 大分県大分市大手町3丁目1番1号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	統計データ活用促進事業		
概要	職員の統計リテラシーの底上げを目指した人材育成を行うため、職員が、EBPM・データ活用の重要性を理解し、データに基づく政策立案の実践力を習得する機会となる研修を実施していただきたい。				
支援を求める分野	EBPM				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年8月20日	講演(実地)	9時30分	16時30分	60
			活動時間（分）	360	
2-2. 派遣場所	会場名	大分県庁	最寄駅	JR大分駅	
	所在地	大分県大分市大手町3丁目1番1号	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変よい
上記評価の理由 （どのようなところがよかったか等詳細に）	・EBPMやオープンデータ分野での支援実績が豊富なアドバイザーに研修を行っていただいたことで、政策立案におけるデータの重要性や必要性を受講者に認識してもらうことができた。 ・ワークショップでは大分県内の各地域についての実際のデータ（well-being指標）を使用していただいたため、受講者は県内各市町村の現状・課題をデータから把握し、それを踏まえたエビデンス・ベースな議論により政策を立案するという経験をすることができた。
アドバイザーへの要望事項	受講者アンケートではほぼすべての職員が「業務に役立つ」と回答したほか、「全職員に受講してほしい」、「管理者向け研修に盛り込んでほしい」などの意見があった。このような研修の必要性を再認識することができ、今後も継続していく必要があると考えているため、下山アドバイザーには今後も引き続きご支援をいただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	27人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	27			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 （具体的に記入下さい）	「大分県DX推進戦略」では「データに基づく政策立案」が明記されており、関係課が庁内にEBPMの浸透を図るための事業を展開している。当課においては、先進事例の紹介や初歩的なデータ利活用手法についての研修を実施しているが、受講者アンケートには実践的なデータ分析の研修の開催を希望する意見が多い。そのため、職員が統計データから実際に地域の現状や課題を読み解き、分析結果を政策立案に活用できる能力「統計リテラシー」の底上げを目指した研修に取り組む必要がある。
支援により目指す成果 （具体的に記入下さい）	職員が、アドバイザーの支援を通じて習得したEBPMおよび地域情報化についての知識・スキルを活用して「データに基づく政策立案」を実践することで、大分県DX推進戦略に掲げる「一人ひとりのニーズに合った多様な幸せを実現できる社会の実現」を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	EBPMやデータ利活用の必要性・重要性についての講義(座学)、Excelによるデータ加工・分析の演習、データに基づく政策立案のためのワークショップという実践的な構成により、統計リテラシーの底上げを図るための研修を実施していただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 講義(座学)を通じて、EBPMやデータ利活用の必要性・重要性について理解できた。 Excelの演習により、「タテ持ち」形式の重要性、ピボットテーブル・ピボットグラフの活用方法やパワークエリによるファイル統合の方法等を習得できた。 ワークショップにより、地域の現状把握や課題の発見にWell-being指標やRESASのデータを活用し、その現状把握や課題の発見を踏まえた政策立案を行う経験をする事ができた。 	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 (職員研修のため具体的な成果物は無し)	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	研修内容や環境上の制約などから、受講者人数が限られたため、受講できなかった職員に対しても今回の研修と同様に、統計データから実際に地域の現状や課題を読み解き、分析結果を政策立案に活用できる能力「統計リテラシー」の底上げを目指す必要がある。また、受講職員は、EBPMやデータの重要性について認識し、データを政策立案に活用する経験をしたことから、この研修で得られた成果を日々の業務に活用していく必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>受講者アンケートでは、ほぼすべての受講者から「役立つと思う」「どちらかといえば役立つと思う」との回答が得られた。また「全職員に受講してほしい」「管理者向け研修に盛り込んでほしい」などの意見があった。</p>	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	今回は希望者を対象に研修を行ったが、受講者アンケートでは「全職員に受講してほしい」との評価もあり、規模を拡大して「統計リテラシー」の底上げを目指した研修の開催に取り組んでいきたい。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	今回の研修を通じて習得したEBPM及び地域情報化についての知識・スキルを活用して「データに基づく政策立案」を実践することで、大分県DX推進戦略に掲げる「一人ひとりのニーズに合った多様な幸せを実現できる社会の実現」を目指す。	

具体的に記入下さい。
支援を受けた事業が成果につながった要因(自治体側に内在していた成功要因)

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可 掲載不可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

